

## はじめに

私たちの「障がい児の放課後問題を考える会」は2005年に立ち上げられ、今年で4年目を迎えます。障がいのある子どもたちが今よりもっと笑顔で、豊かな放課後を過ごせないかと考えている大分大学生15名で現在活動している自主的なサークルです。この会は、学生が主体となって活動している取り組みに対して大分大学が支援する「生きいきプロジェクト」に参加しています。

会の活動としましては、2006年にはアンケート作成・調査、シンポジウムを行いました。この目的としましては、子どもたちのおかれた現状や家族の思いを表面化することで、障がいのある子どもたちやその周囲の方々にとって、放課後に対するニーズがあることがあることを明らかにするとともに、それを社会の問題として捉えることがあります。また、2007年3月に、シンポジウムの報告集を大分合同新聞社のご協力によって発刊させていただきました。あわせて、障がいのある子どもたちを対象とした「夏まつり」を2年続けて行い、子どもたちの素敵な笑顔に出会うことができました。

このような会の活動から見えたものは、子どもたちにとって当たり前である遊ぶ権利が保障されていないこと、そして、家族にかかる負担が大きいということです。子ども時代に様々な経験をするのが、子どもの成長・発達に大きく影響してくると私たちは考えています。しかしながら障がいがあるがゆえに、経験する・遊ぶ機会を奪われている子どもたちの現状が存在しているのです。これらの現状を、より多くの人に知ってもらい、地域全体でこの問題に取り組むことが、子どもたちの豊かな放課後を作ることに繋がると、当会では考えています。

そこで今回は、「障がいのある子どもたちに豊かな放課後を！」をテーマとした講演会を開くことにしました。今回、講演会を開くにあたって大分大学から資金面での援助を受けたことをご紹介させていただきます。大分大学では、「大分大学生きいきプロジェクト」といって大分大学の学生の自主性、積極性、元気力を引き出し、企画、運営、実施能力等を高めるため、学生から活きのいいプロジェクトを募集し、その活動を全面的にバックアップし、学生の活動を通して、在学及び地域の活性化がさらに広がっていくことを目的としたプロジェクトです。私たちの活動はこの「生きいきプロジェクト」に採用されたため、大学からの資金援助を受け講演会の開催を実現することができました。

今回、この講演会を通して障がいのある子どもたちの現状や、今この問題について頑張っている団体について、知っていただきたいと考えています。また、ワークショップでは、参加してくださった人たちの生の声を聞き、そこから何か行動を起こすきっかけづくりにしたいと思います。

最後になりましたが、私たちが活動を行えるのも障がいのある子どもや保護者の皆様、ボランティア、その他ご協力くださいました関係者の皆様のおかげだと思っております。

この場を借りてお礼を申し上げます。

障がいのある子どもたちの豊かな放課後のためには、まだまだ多くの問題・課題が残っています。この問題・課題は当会だけで解決することでは決してありません。障害についてよく理解し、子を想う保護者の方々。障がい児や保護者を受け入れ、強く支えてくれる施設や職員の方々。この他にも、様々な人々の理解・協力・つながりが必要だと、当会では考えています。理解することで問題に向き合うことができ、協力することで問題解決に取り組むことができ、つながりをもつことで問題を一人で抱えこまずによいのです。当会の活動で、上記で掲げた理解・協力・つながりが多くの人々の間に生まれることを強く願っています。最後になりますが、これからも当会への理解・協力・つながりを皆様方に持っていていただくことを切に願っております。